

動物の診察室

から

○ 57 ○

私の家には、アイリッシュ・ウルフハウンドという大きな犬がいます。以前にも同じ種類の犬を飼っていたのですが、6年ほど前に死んでしまいました。その子の名前は「モロちゃん」。女の子でしたが、とても大きくて「ものけ姫」に出てくる山犬のモロから名前をとった犬です。

動物病院では、犬の輸血をすることがあります。輸血は大きな犬から

親、兄と6年ぶりに再会

ウルフハウンドの家族

でない採血できない場合があり、モロちゃんが死んでから、同じ種類のウルフハウンドを探していました。そんな折、大阪で子犬が生まれていることを知り、飼い主に血液型を調べていただきました。その子犬たちはほ

も小さく感じました。それでついた名前は「小梅ちゃん」です。小梅はいままでお父さんやお母さん、兄弟と一緒にいたのに、知らないところへ来て戸惑っていました。そのころ私の家には、チワワとダックス

フントとシーズーがいたのですが、その子たちにも気を使いながらも、旅の疲れもあって、夕方早く部屋の片隅で眠っていました。その時の小梅は夢を見ていたようで、「くう」「くう」とか細く鳴いていま



ウルフハウンドでいっぱいの待合室

の中には小梅の母親もいるとのこと。車をのぞくと、4頭のウルフハウンドがいるのです。小梅の母親と父親と、2頭のお兄さんです。

車から降りして、病院の待合室へ入ると、待合室がいっぱいになりました。

した。そして目から涙が流れていました。お母さんたちの夢を見ていたのですね。でも、すぐにわが家に慣れて、いまは、チワワ、ダックスと仲良く暮らしています。

先日、大阪の小梅を譲ってくれたお家から、小梅に会いに新潟へ来るとの電話がありました。大阪のお父さんとお母さん

は車でおいでになり、車里がとうとうございました。